

令和4年度事業報告書

1 法人の概要

(1) 設置する学校・課程・学科等（令和4年度末現在）

学校法人 嶺南学園
敦賀気比高等学校 全日制課程 普通科
敦賀気比高等学校附属中学校

(2) 生徒定員・入学者・在籍者・卒業生・志願者数

()内は女子数

区分 校・学科		学則定員	募集定員	令和4年度 入学者数	令和4年度 在籍者数 (5/1現在)	令和4年度 卒業生数	令和5年度	
							志願者数	入学者数
高等学校	普通科	250	230	205 (99)	683 (331)	237 (115)	257 (127)	239 (118)
中学校		105	30	26 (15)	64 (35)	16 (6)	17 (9)	16 (9)
総合計		355	260	231 (114)	747 (366)	253 (121)	274 (136)	255 (127)

* 高等学校は附属中進学者を含む。

(3) 役員・教職員（令和5年3月31日現在）

役員（理事9名、監事2名）

理事長 宇野 晃成
副理事長 徳本 達之
常務理事 刀根 茂
理事 林 雅則 山本 恒司 森本 哲
池澤 俊之 中村 淳 古谷 清和
監事 山形 晃 山本 等

評議員

林 雅則 外19名

教職員数

教員 47名 特任教員 6名 常勤講師 1名 非常勤講師 18名
事務局 8名 特任職員 1名 嘱託 8名

2 事業の概要

(1) 新型コロナウイルスに関する対応状況

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き、本校においても他校同様、同居家族PCR検査の場合は自宅待機を要請し、換気、手指消毒、マスクの適切な装着など感染対策を実施。4月7日（木）には、入学式を新入生及び保護者1名に制限し挙行し

た。体育祭は令和3年度と同様、熱中症対策もあって敦賀市運動公園体育館にて実施、客席の間隔を空け座席指定で実施。今後も体育祭は運動公園体育館での開催を継続していく。

修学旅行については、高校では3泊4日（10月25日～28日）で初めて、東北（宮城、岩手、福島）及び東京へ行き、東北大震災の現地を訪ねた。南三陸鉄道の震災列車に乗車し、現地ガイドの方から当時の状況を聞き学ぶ三陸鉄道震災学習や奇跡の一本松見学、いわてTUNAMIメモリアル震災伝承館において様々な資料をもとに館員の方から説明を伺うなど、生徒たちには多くの学びがあった。付属中学は九州（長崎県原爆資料館、軍艦島、福岡県九州国立博物館等）への2泊3日（10月16日～18日）の修学旅行を今年度無事実施できた。卒業式についても、昨年同様、外部施設（市民文化センター）を使用し、卒業生、保護者及び来賓1名（父母師会長）、教職員にて実施した。

（2）事業の取り組み状況

学校の事業としては、中高一貫教育としての特進コース、中学部の指導の充実を図った。また、新入生から進学コースと教養コースを、進学コースに統合し、特色のある学校づくりを推進すべく、コースの再編に取り組んだ。

①特別進学コースでは、「夜学習（18:00～19:30）」、長期休業中の補習、土曜補習、休日に登校し自習できる環境整備を進めた。令和4年度、職員室前の学習スペースに、新たに机とLEDの電気スタンドを複数配置し、全校生徒の学習場所として活用ができた。試験前や試験中は、教員に質問する生徒、自習する生徒で溢れている。

②進学コースは、令和4年度新入生から、進学コースと教養コースを統合し、新進学コースとして再スタートした。進学一般専攻、進学中国語専攻、進学美術専攻、技能開発専攻の4専攻を設定し、各特長を生かし、生徒の希望を尊重しつつ、特色ある学習指導、進路指導を実践した。また、2・3年生の教養コースの生徒についてもキャリア教育を充実し、商業系、工業系科目を選択で学び、あわせて情報処理、福祉系科目の基礎を履修可能とし、市内、県内への就職を中心とし面接練習、企業見学等の指導をしながら進路実現を図った。学校全体で就職希望者が47名おり、企業（東洋紡、敦賀セメント、信越化学工業、永大産業他）へ44名、公務員（福井県警他）へ3名と全員が内定を得た。

令和4年度、進学コースの成績上位クラスを、新たに「進学選抜クラス」として、大学入試において、一般入試や総合選抜入試の受験に対応できる学力の養成に努めることとした。進学選抜クラスでは、県模試の全員受験、それに伴い県模試実施直前には、特進同様に県模試対策講座を実施。また、夏休み、冬休み、春休み等の長期休業日にも、特進に準じて特別講座（補習）を実施した。進路指導の充実も図りながら、大学合格を目指す体制を整備した。

また、探究活動の一環として、リーディングスキル（基礎的読解力）向上と、コミュニケーション力、自己省察力を高めるための取り組みとしての哲学対話の実施を核とした「対話と読解のプラクティス」の授業を、高校1・2年生の進学コースおよび教養コースに学校設定科目として設定した。また、1年生においては福井県が主催する「プレゼン甲子園」に全員が取り組み、プレゼン力を養成した。新入生オリエンテーションでは、「哲学対話in敦賀気比」と題して、体育館で、1年生全員が、哲学対話を行い、活発に意見が飛び交っていた。

付属中学校については、「中池見みんなで報告会」でポスター発表を行った。また、アオッサで行った福井県合同課題研究発表会では、4つの班が県内の小中高に交じり、海洋ゴミ、マイクロプラスチックについての発表を行ったり、気候と音の関係性について発表

を行ったりし、大学の先生方や、高校生などからの質問に答えていた。

I C T教育については、特進コースの全生徒がタブレットを所有し、学習支援ソフトの「classi」と「ロイロノート」をインストールして、授業や家庭学習等で活用した。また、進学コースの2・3年生の生徒は全員、学習支援ソフト「スタディサプリ」を使用し、基礎学力の定着に役立てた。さらに、教室等に整備されたW i - F i機能等の活用を一層充実させ、中学生や進学・教養コースの生徒が学校のタブレットを使用し学習等に活用するようになった。非常勤の教員を含め、多くの教員がタブレットを使用した授業を展開するようになった。

部活動については、運動部では、駅伝部男子が令和4年度福井県高等学校駅伝競走大会にて4年連続優勝を遂げ、第73回全国高等学校駅伝競走大会へ福井県代表として4年連続出場を果たした（成績37位）。また硬式野球部は第104回全国高等学校野球選手権大会に続出場しベスト16となった。この他、レスリング部、男子テニス部、空手道部が、全国選抜大会に出場を果たしている。

部 名	大 会 名 ・ 成 績
駅伝部 陸上競技部	令和4年度福井県高等学校駅伝競走大会 男子4年連続優勝 女子 3位
	令和4年度北信越地区高等学校駅伝競走大会 男子3位
	第73回全国高等学校駅伝競走大会出場（男子37位、前回23位）
	令和4年度福井県陸上競技選手権大会1500m 筑紫 昂太 優勝 5000m 森 稜真 優勝
	福井県高校総合体育大会陸上競技 800m 田川 琉久 優勝
硬式野球部	第104回全国高等学校野球選手権大会 ベスト16 （①高岡商・13-3、②市立船橋・8-6、③聖光学院・1-8）
	第95回選抜高等学校野球大会 出場（1回戦 大阪桐蔭・1-3）
男子テニス部	第45回全国選抜高校テニス大会 男子団体ベスト16
	令和4年度全国選抜高校大会北信越予選 男子団体 優勝
レスリング部	全国高等学校選抜レスリング大会 団体 出場
	個人 小島 来輝、小林 和博、寺地 頼斗、濱口 禮伎 出場
	全国高等学校選抜レスリング北信越大会 団体 2位 個人125kg級 優勝 中島 武蔵
空手道部	令和4年度北信越高等学校総合体育大会空手道競技 団体 形 男子 優勝、女子 2位 個人 形 女子 3位 寺下 心華
	第41回全国高等学校空手道選抜大会 女子団体形、女子個人形 出場
剣道部	令和4年度福井県高校新人大会 女子 団体 優勝
	令和4年度福井県高等学校総合体育大会剣道競技 男子団体 2位
ダンスチア部	第15回日本高校ダンス部選手権京滋北陸大会ビッグクラス 3位
その他	ふくい理数グランプリ高校の部化学グランプリ部門優秀賞 天野 風人、楠本 茉桜、常田 将平
	第40回全日本中国語スピーチコンテスト福井県大会 スピーチ部門 最優秀賞 菖蒲 彩葉
	日本数学コンクール（名古屋大、大阪公立大共催） 優秀賞 北野 遙輝、藤田 昂生、山本 愛也
	小倉百人一首競技かるた第53回全国小・中学生選手権大会（全日本かるた協会主催） 4位 付属中1年 杉谷 優里

発達障害や不登校生徒などへの対応については、近年、特別支援を要する生徒が中学・高校ともに増加傾向にあり、教育相談担当を中心に特別支援委員会を各学期に開催する一方、家庭との連携を図り、生徒の状況に合わせて適宜対応を行った。また、月に3回、臨床心理士であるスクールカウンセラーによるカウンセリングを、高校では生徒16名で計62回、保護者6名が計12回、中学では生徒0名、計74回の対象生徒・保護者の支援を行った。不登校等の長期欠席者に対しては、特別委員会を開催し、該当生徒の状況を把握して必要に応じた配慮を行った。

③受験生やその保護者にとって、教養コースというイメージがあまり良くないので生徒が誇りを持って学べるようなコースにすべく、非常勤の教員も含めて、教養コースについての会議を持ち、令和4年度に向けて、どのようなコースとすべきかを検討し、最終的に進学コース、教養コースを一本化し、進学コースにまとめることとした。その中に4つの専攻（従来の進学コースにおける「一般専攻」、「中国語専攻」、「美術専攻」と、教養コースで学ぶ商業系の科目か工業系の科目の選択及び、就職において必要とされるExcelとWordを中心に学ぶ情報の科目を中心として学習する「技能開発専攻」）を設けることとした。

また、英語と数学について、週に1時間中学の内容からの学び直しをする時間を設け、わかる授業にすることを目指すこととした。さらに進学コースの中の成績上位者でつくる「進学選抜クラス」を設け、文武両道を基本に大学進学を目指す力を養成するための指導体制を整えることとした。

(3) 生徒募集

令和4年度高校入試ではコースの再編があったが、それを周知するオープンスクールがコロナ禍で行えなかったことや公立学校の定員数が受験生の実人数に対し必ずしも適当ではないこと、また、従来教養コースに来ていたであろう層の受験生が通信制等の学校に流れたこと、公立学校の入試日程が早まったことなど、さまざまな要因から、定員230名に対し志願者数は209名、合格者は205名（外進191名、内進14名）であった。附属中学校は定員30名に対し志願者31名（内17名が女子）、合格者が26名（内15名が女子）であった。その反省に立ち、令和5年度募集では、進学コースの説明に重点をおき、二州地区への周知の徹底を図った。公立高校の募集定員、二州地区の受験生人口の増加との関係、二州地区以外からの部活動の勧誘努力もあり、進学コースについては順調な募集状況となり、教室等の収容人数の限度に近い1クラス40名の規模で受け入れた。今後はいかに特別進学コースへの入学希望者を増やしていくかが第1の課題である。

(4) 教育環境の整備

- 中学iPad、WEBカメラ等整備 (11/24納品)
- 校内LED照明整備 (着工9/1、2/16完成)
- 保健室待機室エアコン取付工事 (9/20完成)
- 印刷室複合機整備（オルフィス） (6/1納品)
- 寄宿舎送り高圧電気設備入替
- 寄宿舎冷蔵庫入替 (6/15納品)
- 特別教棟北・南面外壁等改修工事 (着工7/1、完成9/30)
- 特別教棟屋上防水工事 (着工7/1、完成9/30)